

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業振興センター

「稲作・大豆情報（第9号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第9号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

1. 気象概況

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R7 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R7 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R7 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R7 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R7 (hr)	平年比 (%)
8月	1	28.3	29.4	1.1	33.4	35.5	2.1	24.5	25.5	1.0	29.3	22.0	75.1	35.5	44.0	123.9
	2	28.2	28.0	-0.2	33.3	30.9	-2.4	24.5	25.6	1.1	30.0	162.5	541.7	34.7	9.8	28.2
	3	28.0	28.8	0.8	33.0	33.7	0.7	24.4	25.4	1.0	32.8	68.5	208.8	32.8	37.4	114.0
	4	27.6	29.1	1.5	32.6	35.4	2.8	24.1	25.3	1.2	35.0	7.5	21.4	31.4	50.5	160.8
	5	27.1	29.1	2.0	32.2	34.7	2.5	23.5	25.3	1.8	37.9	1.5	4.0	30.1	41.4	137.5
	6	26.4			31.5			22.8			48.6			34.3		

○8月5半旬の平均気温は、2℃高く、最高気温は2.5℃高い、最低気温は1.8℃高かった。降水量は平年比4%と少なく、日照時間は平年比137.5%と多くなった。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：8月28日）

品種(設置場所)	年 次	主 稈 出葉数L	葉色 SPAD	出穂期	概 要
さがびより 6/21移植 武雄市橋町 ※2	本年値	13.9	34.4	8/29	・出穂期は、平年並。
	前年値	14.0	—	8/28	
	平年値 ※1	14.2	—	8/29	
	平年比	-0.3	—	0	

※1 さがびよりの平年値はH21～R6の平均値

※2 本年移植日6月21日 平年移植日6月21日

栽植密度 14.8株/㎡

品種(設置場所)	年 次	主 稈 出葉数L	葉色 SPAD	出穂期	概 要
ひなたまる 6/25移植 白石町	本年値	14.6	37.4	8/26	

栽植密度 18.6株/㎡

米づくり情報(平坦部) 第9号

令和7年8月27日

佐賀県農業試験研究センター 本場

本年産水稻の生育状況(8月27日)

移植日	項目 品種	年次	草 丈 cm	茎 数 本／㎡	葉 齢 L	葉色 SPAD	概 況 (平年または前年との比較)
6月18日	夢しずく	本 年 平 年 平年比(差)	出穂期:8月16日 8月17日 -1				【気象】 8月20日～8月26日まで ◆平均気温…1.9℃高い ◆日照時間…長い(平年比132%) ◆降水量…少ない(平年比2%) 【生育】 ◆草丈 「さがびより」は高く、「ヒヨクモチ」はやや高い。 ◆茎数 「さがびより」、「ヒヨクモチ」のどちらも多い。 ◆葉齢 「さがびより」の主稈葉数は平年並み。 「ヒヨクモチ」の葉齢は平年並み。 ◆葉色(SPAD 値) 「さがびより」はやや淡い、「ヒヨクモチ」は淡い。 ◆主茎の葉耳間長は「さがびより」14.6cm、「ヒヨクモチ」9.5cmとなっている。 「さがびより」の出穂期は平年並みから1～2日早いと見込んでいる。
	ヒノヒカリ	本 年 平 年 平年比(差)	出穂期:8月26日 8月27日 -1				
	ひなたまる	本 年 前 年 前年比(差)	出穂期:8月25日 8月25日 ±0				
6月20日	さがびより	本 年 平 年 平年比(差)	98.6 92.9 106	494 437 113	止葉葉位 15.2 15.0 (+0.2)	35.0 35.7 (-0.7)	
	ヒヨクモチ	本 年 平 年 平年比(差)	81.6 78.4 104	659 515 128	15.8 15.6 (+0.2)	34.6 36.8 (-2.2)	
留意点	○「ひなたまる」、「ヒノヒカリ」は出穂期を迎えており、「さがびより」もまもなく出穂期を迎える。穂揃い期以降は間断灌水に切り替え、土壌を固めるとともに根の活力維持を図る。 ○「ヒヨクモチ」は引き続き穂揃い期までは浅水管理を行い、実肥は施肥基準に基づき適切に施用する。 ○病害虫は農業技術防除センターの発生予察情報及び圃場を確認し、適期防除に努める。						

3. 今後の管理

(1) 夢しずく(普通期)

○現在、生育ステージは、傾穂期～登熟期である。

・間断灌水を行い、土壌を固めると共に根の活性化を図る。

(土が柔らかい圃場では、間断灌水の断水期間を長めに行い、土を固める。)

特に本年は、稈長が高い圃場も散見されるので、地をかためて地耐力をつけておく。

(2) 普通期水稻

○現在、生育ステージは、出穂期～穂揃期である。

- ・出穂期から穂揃期にかけては、最も用水量が必要な時期なので、浅水管理を行う。
その後、間断灌水に移行する。

(3) 病虫害対策 (病虫害発生予察情報 9 月 予報 農業技術防除センター)

作物名	病虫害名 ^{注1)}	9月の予想発生量 ^{注2)} 平年比	予報対象の病虫害 (抜粋)
水稻 (山間早植え)	トビイロウンカ	並	 ホソハリカメムシ  イネカメムシ
	紋枯病	やや多	
	斑点米カメムシ類	多	
水稻 (普通期)	トビイロウンカ	並	1. 斑点米カメムシ類 薬剤防除は乳熟期（穂揃い期の約10日後）を中心に行うが、発生が多い圃場では穂揃い期と乳熟期（穂揃い期の7～10日後）の2回薬剤防除を行う（令和7年8月6日付け病虫害発生予察注意報第1号参照）。なお、出穂前にイネカメムシの発生を認めた圃場では、通常の斑点米カメムシ類の防除適期である穂揃い期～乳熟期の防除だけでなく、不稔の発生を防ぐため、発生状況に応じて出穂期の薬剤散布を実施する。 2. 紋枯病 発生が多い圃場が一部で認められる。各圃場で発生状況を確認し、病斑が上位3葉の葉鞘に達している場合は直ちに薬剤防除を行う。 3. トビイロウンカ 本種の発生状況は、田植え時期、水稻の品種、地域、これまでの防除の違い等によって異なるので、発生予測図（共通-図1）を参考にして、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。 4. コブノメイガ 止葉を含む上位3葉への被害を防止するため、各圃場における発生状況を確認し、幼虫ふ化揃い期である発蛾最盛期の約7日後に薬剤防除を実施する。
	穂いもち	やや少	
	紋枯病	やや多	
	斑点米カメムシ類	多	
	コブノメイガ	並	
	白葉枯病	並	
水稻全般			1. 薬剤散布の際の留意点 薬剤散布は、周辺の環境に十分配慮し行う。特に、ミツバチの被害を回避するため、養蜂農家に農薬の散布時期等を予め伝達するなどの対応を取る。
大豆	ハスモンヨトウ	やや多	 ハスモンヨトウによる白変葉
	カメムシ類	多	

作物名	病虫害名 ^{注1)}	9月の予想発生量 ^{注2)} 平年比	予報対象の病虫害 (抜粋)
	1. ハスモンヨトウ フェロモントラップでの誘殺数は平年並で推移しているが、今後本種の増殖に好適な気象条件が予想されており、発生が増加するおそれがある。各圃場での発生状況を確認し、白変葉が散見され始めたら確実に防除を行う。 2. カメムシ類 莢の伸長初期から子実肥大中期に防除する。発生が多い圃場では、7～10日間隔で2～3回防除を行う。 3. 紫斑病 若莢期～子実肥大中期に薬剤防除を実施する。		

① ウンカ類、コブノメイガ

- ・セジロウンカとトビイロウンカは6月16日～23日頃、及び8月10日～11日頃に飛来が確認されている。

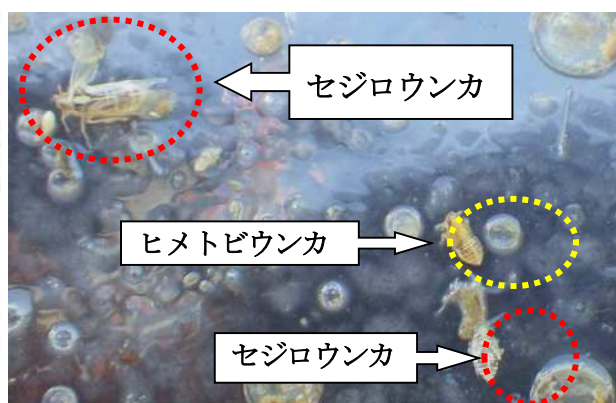
今後のトビイロウンカの防除タイミングは、9月5日～8日頃。

また、圃場の状況を観察し、トビイロウンカの多発生がみられた場合は9月下旬～10月上旬にかけて臨機防除を行う。(図1参考)

- ・コブノメイガは6月16日、6月25日で飛来が確認されている。葉色の濃い圃場を中心に発蛾最盛期7日後頃を中心に防除を図る。(図2参考)
- ・発生予測は随時更新されるため、最新情報は佐賀県農業技術防除センターのホームページを参照。
- ・今後の飛来状況や圃場での発生状況(移植時期や品種、箱施用剤の種類、施用の有無、圃場の場所等)によってウンカ類の発生量や増殖率が異なるため、圃場での発生状況に注意する。



トビイロウンカ (秋ウンカ)



ウンカ類幼虫の見分け方について

	若齢幼虫の体色	中～老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウンカ	白っぽい	灰白の斑紋	 : 真横
トビイロウンカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	 : 真横～やや斜め後ろ
ヒメトビウンカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色 (体側の色が濃い場合あり)	 : 斜め後ろ

表1 イネウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況(2025年)

月	日	トビイロウンカ				セジロウンカ				コブノメイガ						
		佐賀県		長崎県		佐賀県		長崎県		佐賀県						長崎県
		佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	神埼市	伊万里市	白石町	武雄市	諫早市
		ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップ	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップ	フェロモン トラップA	フェロモン トラップB	粘着トラップ (20W蛍光灯)	フェロモン トラップ	フェロモン トラップ	粘着トラップ (20W 蛍光灯)	フェロモン トラップ
8月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4日		2	0	0		14	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5日		2		0		32		0	0	0	0	0	0	0	0
	6日		2				25			0	0		0			
	7日		8				87									
	8日		4				173									
	9日		4				20					0	1	1	4	
	10日		121				311									
	11日		31				767									

注1)ウンカ類:佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査(回収日で集計)。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。注2)コブノメイガ:神埼市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。
※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室提供。

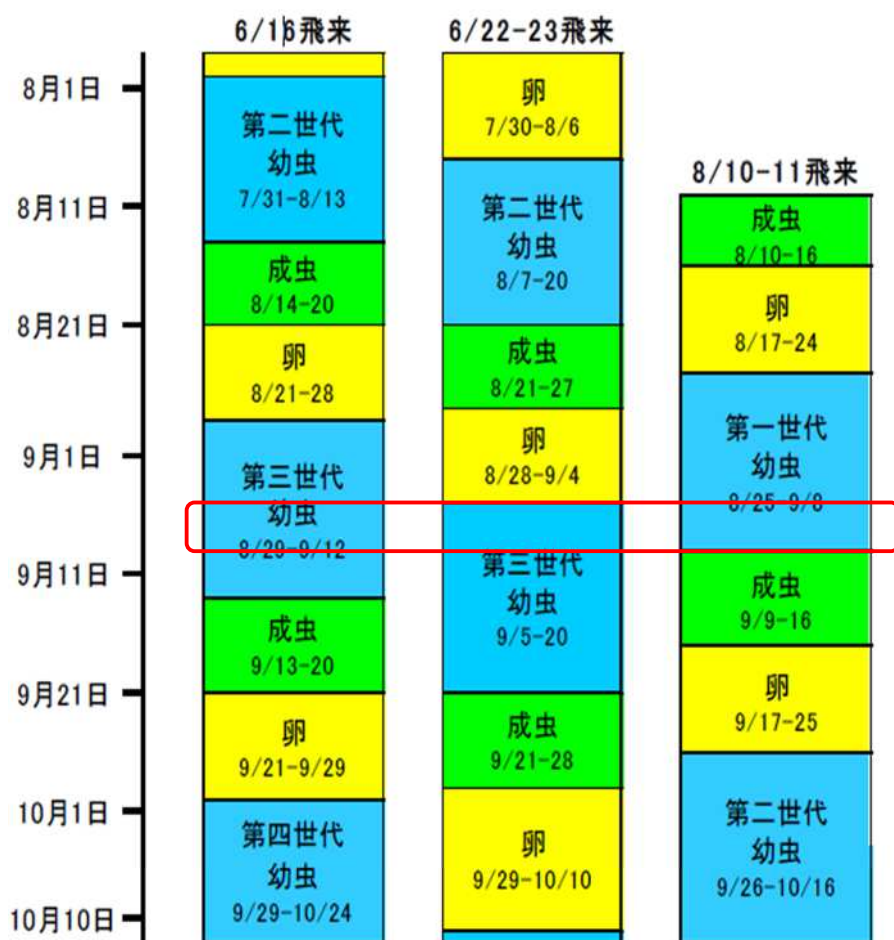
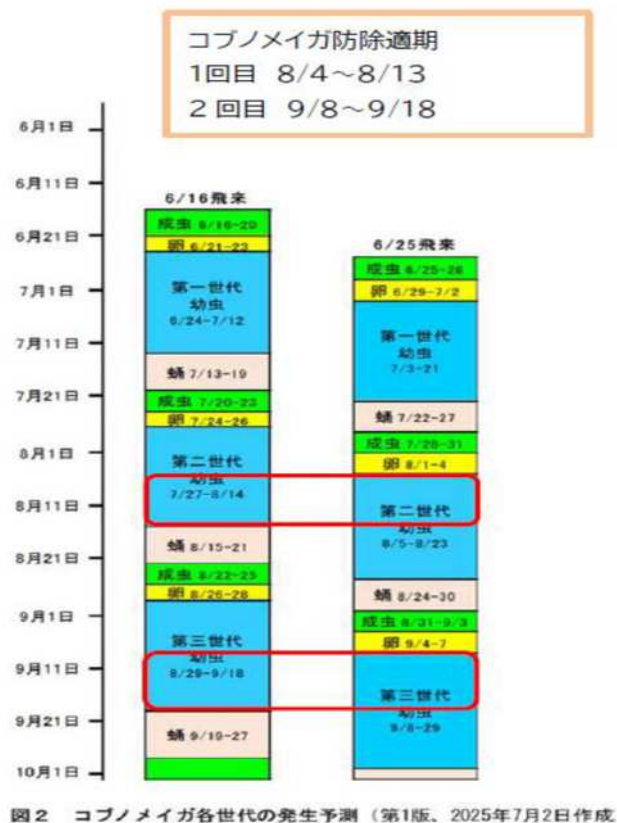


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測 (第3版、2025年8月14日作成)

1. 6月16日頃、6月22日～23日(図では6月23日)、8月10日～11日(図では8月10日)の飛来虫を起点とし、トビイロウンカの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ(8月14日以降は平年値)に基づき作成した。三角法を用い、発育零点 12℃、発育上限温度 28℃、発育停止温度 33℃とした。



② 斑点米カメムシ

- ・本年は斑点米カメムシの発生が平年より多く、佐賀県では予察注意報を出している。
以下の点について留意する。
- ・「夢しずく」は現在乳熟期を迎えている。乳熟期（穂揃い後10日目頃）の防除を徹底して、斑点米カメムシの被害防止を図る。
- ・「中晩性品種」では、薬剤防除は乳熟期（穂揃い期の約10日後）を中心に行うが、発生が多い圃場では穂揃い期と乳熟期（穂揃い期の7～10日後）の2回薬剤防除を行う。
- ・カメムシはイネ科雑草を好むことから畦畔だけでなく圃場内に発生している雑草の除草も併せて行うよう努める。畦畔を100m歩いて、カメムシが3頭いたら、要注意である。

③ 紋枯病

- ・紋枯病の発生が多い圃場が一部で認められている。
- ・各圃場で発生状況を確認し、病斑が上位3葉の葉鞘に達している場合は直ちに薬剤防除を行う。
(バリダシン、モンカット等)
- ・病斑が上位葉の葉鞘に進展する前の防除が効果的である。

特に「ひなたまる」は紋枯病に弱く、過去には紋枯病が多発し、倒伏した事例もあるため、防除を徹底する。



(4) 干ばつ（強風）対策

○現在、中生品種の水稻の生育ステージは、最も用水を必要とする出穂期～穂揃期であるため、湛水管理をするよう（圃場が白乾しないようにする）こまめな用水管理に努める。

4. 大豆の管理について

○現在開花期～開花盛期を迎えている。

開花後の中耕は断根による悪影響が大きくなるので行わない。

(1) 干ばつ対策

- ・コルゲート管の閉栓が土壤水分確保に有効である。コルゲート管は閉めて、土壤水分をできるだけ保持する。ただし、大雨等が予想される際は、コルゲート管を開ける。また、排水口を整備しておき、圃場排水に努める。



(2) 病虫害防除

①ハスモンヨトウ

- ・フェロモントラップでの誘殺数は現在は平年並で推移しているが、今後本種の増殖に好適な気象条件が予想されており、発生が増加するおそれがある。
- ・各圃場での発生状況を確認し、白変葉が散見され始めたら確実に防除を行う。
- ・フェロモントラップを設置している地区やほ場においては、フェロモンによる誘殺数が増加するとは場内の白変葉も増加する傾向がある。従って、フェロモントラップの誘殺数が急増した時に、ほ場での白変葉やハスモンヨトウの発生状況を調査して防除要否を判断する。
- ・ハスモンヨトウは 1 回目の適期防除を行っても、その後の追加防除はその年の気象条件やほ場によって異なる。特に、夏期が高温で経過し、大豆の生育が良好な年は、大豆白変葉

の観察やフェロモントラップ調査をこまめに行い、防除が必要と判断された場合は、早急に追加防除を行う。

- ・農薬が茎葉内部及び着莢部に十分到達するように散布する。
- ・地上散布において展着剤としてササラを加用することで、調整時の泡立ちが抑えられるとともに、湿展性が向上する。



ハスモンヨトウによる白変葉

【オオタバコガ・シロイチモジヨトウ】→ 葉っぱに穴が開く

- ・高温少雨が続いたためハスモンヨトウと同様に多発条件となっている。
- ・オオタバコガのフェロモントラップへの誘殺数は、7月6半旬に増加し平年より多い。
(図1)

- ・シロイチモジヨトウのフェロモントラップへの誘殺数は、平年より多い(図2)。
- ・九州北部地方の1 か月予報(8月23日~9月22日)では、平均気温は平年より高いと予想されており、オオタバコガ、シロイチモジヨトウの増殖・活動に好適である。
- ・管内でも一部、オオタバコガやシロイチモジヨトウの発生が見られている。
- ・オオタバコガやシロイチモジヨトウには、ノーモルト、トレボンに感受性が低下している。(防除効果が高い剤：ブロフレア、グレーシア等)

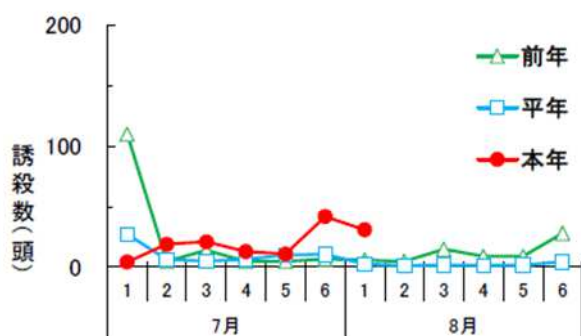


図1 フェロモントラップによるオオタバコガの半旬別誘殺数
(佐賀市川副町・農業試験研究センター調査)

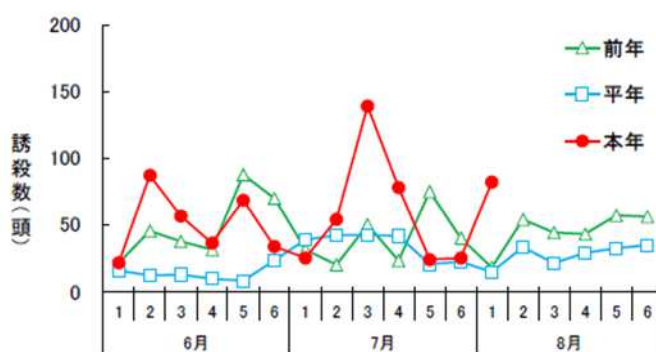


図2 フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの半旬別誘殺数
(佐賀市川副町・農業試験研究センター調査)



オオタバコガ幼虫
(2025 年 8 月 7 日撮影)



シロイチモジヨトウ幼虫
(2023 年 11 月撮影)

②カメムシ

- ・ 定期調査で、平年より発生が多い状況。
- ・ 莢の伸長初期から子実肥大中期に防除する。
- ・ 発生が多い圃場では、7～10 日間隔で 2～3 回防除を行う。
(スタークル液剤、トレボンEW等)
- ・ 品質や収量低下、青立ちの原因にもなるため、発生状況に注意してください。

③ 紫斑病

若莢期～子実肥大中期にかけての防除を徹底する。
(トップジンM水和剤、ファンタジスタフロアブル等)